福田修志　短編戯曲集

◆収録作品◆

ノイジー

街角の陽炎

シュークリーム事件

ノイジー

福田　修志

◆登場人物

飯香浦　千香（いかのうら　ちか）

中島　由利（なかしま　ゆり）

中島　翔太（なかしま　しょうた）

音楽が流れる中、翔太が一人でテレビを見ている。
椅子とテーブルがある居間の普通の風景。
ぼ～っとテレビを見続ける翔太は、時折、ニヤリと笑顔を浮かべる。
やがて翔太は去っていき、入れ替わりに女が二人現れる。
由利は飯香浦を椅子に促し、すぐに去っていく。
落ち着かない様子の飯香浦は、椅子に腰掛ける。
しばらくして由利が戻ってくる。

由利　すみません、散らかってて。
飯香浦　いえいえ、全然。
由利　ケーキぐらいあったら、よかったんですけど……。
飯香浦　私が急に来たんですから、気にしないでください。
由利　いや、本当だったら、こちらからご挨拶に伺わなきゃいけなかったのに……。
飯香浦　いいのよ。引っ越してきたばかりで忙しいんでしょ？
由利　でも、もう一ヶ月になりますし……。
飯香浦　いいんですって。
由利　すみません……全然片付かないんですよね……。
飯香浦　ごめんね、なんかそんな時に、アレしちゃって。
由利　いやいや気にしないで下さい。（コップを指して）あ、どうぞどうぞ。

飯香浦　すみません、いただきます。

由利　ミルクとかいります？

飯香浦　あ、いいですよ。ブラックで。

由利　いいです、いいです。

再び一人きりになる飯香浦。そこへ、翔太が戻ってくる。

飯香浦　（翔太に）お邪魔してます。

何も言わず立ちつくし、飯香浦を見ている翔太。

飯香浦　……何か？

由利が戻ってくると、翔太は由利の元へ行く。

由利　ほら、挨拶して。

翔太は飯香浦を睨んだ後、何も言わず去っていく。

飯香浦　……。

由利　すみません。人見知りで……。

飯香浦　いえ……。

由利　ホント、すみません……。

コーヒーを飲む二人。

飯香浦　前は、どちらに？

由利　あの……住吉（すみよし）の方に。

飯香浦　ああ、アッチの方から？

由利　はい。

コーヒーを飲む二人。

飯香浦　マンション？

由利　いや、あの、小さなアパートで。

飯香浦　ああ。

由利　ちょっと狭かったし、一軒家が良いよねって。で、こっちに。

コーヒーを飲む二人。

飯香浦　お仕事は？

由利　わたし？

飯香浦　いや、ご主人さんの。

由利　あ、ホームページのデザインとかする。

飯香浦　あ、それで……。

由利　そんな大した仕事じゃないんですよ。

飯香浦　何言ってるの。そうじゃないと、こんな立派な家、建てられませんってば。

由利　いやいや、飯香浦さんとこなんか、池があってビックリしましたよ。

飯香浦　いやいやいやいや、ウチはホラ、親から譲ってもらった古い家だから、中の方は酷いのよ。

由利　立派なお家じゃないですか。

飯香浦　外面だけだって。

由利　いやいやいやいや。

飯香浦　ホントホント。

翔太がお尻を押さえながらやって来る。

翔太　うんこ、うんこ、うんこ、うんこ。

二人を無視して通り過ぎる翔太。由利は翔太が去った方を気にかけて見ている。

飯香浦　（咳払い）
由利　あ、すいません……。
飯香浦　あ、いやいや……。なんか……大変みたいね。
由利　あはははは。（苦笑）

コーヒーを飲む二人。

由利　で……話って？
飯香浦　ああ……いやね、まああたしもさ、あんまり他人様の家のことをとやかく言うのはどうかと思うんだけど……。
由利　何かありました？
飯香浦　いや、ほら、……夜に……ね、
由利　ああ……やかましいですか？
飯香浦　う～ん……。
由利　すみません……。もうホントに……。
飯香浦　いや、何かねえ。その……中島さんには、中島さんの事情があるのは分かるんだけどさ……。

由利　はい。
飯香浦　でもさ、夜中にね、あの泣き声は、やっぱりどうかと思うのよね。
由利　はい。すみません……。
飯香浦　まあ、あたしだけじゃなくてね、この辺、ホラ、夜静かでしょ？　みんなに迷惑掛かると思うのね。
由利　そうですよね。
飯香浦　大人だからさ、その辺りをちょっと考えてもらえたらって、みんな思ってると思うの。
由利　はい……。
飯香浦　だから、ね？
由利　はい……。

コーヒーを飲む飯香浦。由利は俯いている。

飯香浦　もしかして、前のアパートも、それで追い出されたの？
由利　（慌てて）いや、あの……追い出されたってわけじゃないんですけど、やっぱりお隣に迷惑掛かるから、一軒家がいいだろうって思ってですね。
飯香浦　まあ、仕事が大変なのも分かるけど……。
由利　仕事は、大丈夫だと思うんですけど……。
飯香浦　大丈夫じゃないでしょ。おかしいよ？

由利　いや、そっちは、私たちがなんとかすればいいので……。
飯香浦　何とも出来てないから、こうなるんでしょ？
由利　いや……。
飯香浦　じゃあ何？　何で毎日喧嘩してるの？
由利　喧嘩？　してませんよ？
飯香浦　え？　じゃあ何？　おかしいでしょ？　大の大人が毎晩毎晩ギャンギャンギャンギャン泣いて喚いて。……何してるっていうの？
由利　（気がついて）あ、すみません……。
飯香浦　すみませんじゃなくてさ。
由利　いや、あの、ちゃんと説明しなかったですね。
飯香浦　説明じゃなくてさ、まずは謝るのが筋じゃないの？
由利　いや、あのですね。

いつの間にか翔太がいる。

翔太　ねえ、ママ。うんこ出た。
由利　あらそう。ちゃんと流した？
翔太　ううん。大っきいの。
由利　ちゃんと流してきて。

翔太　ママがして。
由利　自分で出来るでしょ？
翔太　……ボタンして。

由利は翔太のボタンを閉める。そんな翔大に飯香浦は見つめられ、どうしたら良いのか困惑している。

由利　はい上等。早く流しておいで。
翔太　うん。

翔太は去っていく。

由利　そういうことなんですよ。
飯香浦　……あ、そう。そういうプレイ？
由利　プレイ？
飯香浦　いや別にね、中島さんがそういうことするのは自由ですよ？　色んな夫婦の形がありますから、好きにして良いんです。
由利　いや。
飯香浦　でもさ、大人の夜泣きはさすがにやりすぎでしょ？　そこは夫婦で話し合って止めるのが、ご

近所付き合いってもんじゃないですか？

由利　いやだから……さっきの、息子なんです。私の。

飯香浦　……バカにしてるの？

由利　してないです。

飯香浦　中島さん。

由利　ホントなんです。本当に、私の、息子。

飯香浦　……あんたね、何でそんな、すぐ分かる嘘をつくの？

由利　ホントなんですよ。

飯香浦　そんなわけないでしょ。ヒゲ生えてたよ？　立派なヒゲがフサフサと。

由利　はい……。

飯香浦　あれが、息子だったら、あんたがもの凄く若作りしてるか、あの子がもの凄くオッサンくさいかどっちかしかないじゃない。

由利　はい。その、後者の方です。

飯香浦　……中島さん。あんた、もうちょっと話が分かる人だと……。

由利　（遮って）ちょっと待って下さい。待ってて下さいね？

由利は翔太が去っていった方に去り、すぐにアルバムを持って戻ってくる。

その後ろから翔太がついてくる。

由利はアルバムを開き、飯香浦に見せる。

由利　見て下さい。（指して）生まれた時。

いぶかしげにアルバムを見る飯香浦。

飯香浦　……うん。

由利　で、だんだん、だんだん、ほら、ほら、ほら。

由利がアルバムを次々と捲る度に、食い入るようにアルバムを見ていく飯香浦。

飯香浦　……今、いくつ？

由利　６歳です。

翔太　６歳です！

飯香浦　あああああ！

突然の翔大の声と姿にパニックになり、奇声を発する飯香浦。

それに驚いた翔太が泣き出す。

翔太　うわあああああああ！（泣く）

由利　ああ……よしよし翔太。よしよしよし。
翔太　うわあああああああ！（泣く）
由利　大丈夫よ。ビックリしたねぇ。大丈夫大丈夫。
翔太　うううう。（泣く）
由利　ほら、翔太。魔法の言葉覚えてる？
翔太　うううう。（泣く）
由利　ピーピートントン。ピーピートン。
翔太　うううう。（泣く）
由利　ピーピートントン。ピーピートン。
翔太　うううう。（少し泣く）
由利　元気にな～れ、元気にな～れ。
翔太　ピーピートントン……ピーピートン……。（少し泣く）
由利　そう。ピーピートントン。ピーピートン。
翔太　ピーピートントン。ピーピートン。
由利　うん。おりこうさん。
翔太　（元気に）ピーピートントン。ピーピートン。
由利　うん、上手。
翔太　（元気に）ピーピートントン。ピーピートン。
由利　よし、翔太。お菓子食べよっか。

翔太　（嬉しそうに）うん。

急いでお菓子を取りに行く由利。
翔太と飯香浦は二人きりになる。
じっと飯香浦を見つめる翔大。飯香浦はどこを見て良いのか分からない。

翔太　ねえ、抱っこして。
飯香浦　え？
翔太　抱っこして。
飯香浦　いや……。

翔大が笑顔で飯香浦に抱きつこうと近づいてくるので、逃げ惑う飯香浦。

飯香浦　中島さん！　中島さん！

由利がお菓子を持って戻ってくる。

由利　はい、翔太。あっちで食べてね。
翔太　え～。

由利　ママ、まだお話があるの。ね？
翔太　うん。

翔太は去っていく。

由利　すみません、もう大丈夫です。

飯香浦はなんとか平静を装う。

飯香浦　まあ……事情は……飲み込めた。
由利　ありがとうございます。
飯香浦　そういうプレイじゃないってことよね？
由利　違います。
飯香浦　そうよね、ご主人の写真もあったし……似てたし。
由利　父親似なんです。
飯香浦　うん、それは分かった。
由利　よかった。
飯香浦　でもね、やかましいものはやかましい。それは変わらない。
由利　……はい。

飯香浦　しかも、あんな大きな声で毎晩泣かれたら堪らないの。
由利　でも飯香浦さん。子どもが泣くのは仕事みたいなものじゃないですか。
飯香浦　は？　何それ？
由利　いや、だってですよ。
飯香浦　そんなに甘やかすから、泣くんじゃないの？
由利　甘やかすって……。
飯香浦　普通の子と違うんだから、普通の子以上に気を遣ってもらわないと困ります。
由利　最近は……魔法の言葉が効くようになったんで、前ほどはないんですよ。
飯香浦　それでも、夜中にあの泣き声を聞いてみてよ……ビックリするのよ？
由利　すみません……。
飯香浦　なんとかしてやめてもらわないと、やかましくて寝られないの。
由利　（少し考えて）……お言葉を返すようで恐縮なんですけど。
飯香浦　何ね？
由利　飯香浦さん家の音も、昼間結構うるさいんですよね……。
飯香浦　何が？　ウチは昼間誰も泣いてませんけど？
由利　いや、あの……この音。

窓を開ける由利。
外から泡がブクブクする音が聞こえる。

飯香浦　……何？　……ポンプの音？
由利　はい。
飯香浦　鯉を飼ってるんだから、仕方ないでしょ？
由利　そうなんですけど……窓を開けたら、結構うるさくてですね……。
飯香浦　なら閉めれば良いじゃない。
由利　はい。でも……閉めたら暑いから……。
飯香浦　エアコンないの？　あるでしょ？
由利　まあ、ありますけど……昼間、ずっと入れとくっていうわけにも……。
飯香浦　じゃあ何？　鯉に死ねって言うの？
由利　そんなこと言いません。
飯香浦　あたしが前から住んでるんだから、あんたが我慢するのが筋でしょ？
由利　そうなんですけど……。
飯香浦　それ以外に何かあるの？

翔太が車の玩具を持ってきて遊んでいる。

翔太　ブーン！
由利　私は我慢できるんですけど、この子がお昼寝出来ないみたいで……。

飯香浦　だから何？　昼、寝なかったら、夜、寝られるでしょ？
由利　いや……なんか逆に、ストレスが溜まってるみたいで……。
飯香浦　あたしのせい？
由利　そういうことじゃないです。
飯香浦　夜泣きするのは、あのブクブクが原因？
由利　いや。
飯香浦　あたしが寝られないのは、あたしのせい？
由利　いや。
飯香浦　（ヒステリックに）何でもあたしのせいにするのやめてよ！
翔太　ブーン。
飯香浦　（翔太に）うるさい！

驚いた翔太は泣き出す。

翔太　うわああああああああ！（泣く）
由利　（飯香浦に）子どもに当たるのやめて下さい！
飯香浦　やめて欲しいなら、なんとかしなさい！
翔太　うわああああああああ！（泣く）
由利　ああ……よしよし翔太。よしよしよし。

翔太　うわあああああああああ！（泣く）
飯香浦　うるさいって！　……もうやめて……。
翔太　うわあああああああああ！（泣く）
飯香浦　泣きたいのは、こっちよ……。あたしだってね、よく訳の分からない鯉とか、カワイくもないし、世話したくもないの。

由利　（翔大に）大丈夫大丈夫。
翔太　ううううう。（泣く）

飯香浦　あっちの親戚の人に言われるからしてるの。毎日毎日、「鯉は元気にしてるか？」「鯉の面倒ばっかり見過ぎるなよ」「子どもはまだ生まれないのか？」「早く子ども作れ」。勝手なことばっかり言って……。

由利　ピーピートントン。ピーピートン。
翔太　ううううう。（泣く）
由利　ピーピートントン。ピーピートン。
翔太　ううううう。（泣く）

飯香浦　こんな歳で結婚したから、早く産まなきゃって分かってるよ。分かってるけど、上手くいかな

いんだもん。……あたしが悪いの？　全部あたしのせい？　あたしばっかり責めないでよ……。

由利　元気にな～れ、元気にな～れ。

翔太　ピーピートントン……ピーピートン……。（少し泣く）

由利　ピーピートントン。ピーピートン。

翔太　ピーピートントン。ピーピートン。

由利　飯香浦さん……。

泣き崩れている飯香浦の事を考え、窓を閉める由利。

翔太は飯香浦に近づいていく。

飯香浦　やめて！

おそるおそる飯香浦の頭を撫でる翔大。

翔太　（飯香浦に）ピーピートントン。ピーピートン。ピーピートントン。ピーピートン。

翔太に魔法の言葉を掛けられる飯香浦。

翔太　元気にな～れ、元気にな～れ。

飯香浦　……ありがとう。

満面の笑みをする翔太。飯香浦も、その笑顔につられて笑みを浮かべる。

由利　飯香浦さん……。この子、来年小学校に行くんですよ。たぶん、いっぱい色んなこと言われて、傷ついたり、悲しんだりすると思います。……だけど、この子はあたしの子で、あたしはこの子の親だから、何を言われても、あたしはこの子の味方でいようって思うんです。

飯香浦　……色々言われるでしょうね。

由利　はい。

飯香浦　また泣くでしょうね。

由利　……ご迷惑おかけします。

飯香浦　お隣さんだからね、仕方ないでしょ。

由利　……ありがとうございます。

飯香浦　大人でも泣きたいことはあるからね。子どもだったら尚更じゃないの。

由利　はい。

飯香浦　……ねえ、翔太……くん？

翔太　あ？

飯香浦　（翔太に）小学校、楽しみ？
翔太　うん。いっぱい友達と遊びたい。
飯香浦　楽しみだね。
翔太　うん。
飯香浦　（由利に）一個だけアドバイス。ヒゲは剃った方が良いよ。
由利　（笑顔で）そうします。

由利に笑顔で返す飯香浦。翔太は遊び続ける。

（おわり）

街角の陽炎

福田　修志

◆登場人物

里穂（りほ）

貴子（たかこ）

テーブルが一つと、椅子が二つ。
貴子が椅子に座っている。
そこへ里穂がやって来る。

貴子　お～。お帰り。
里穂　……また来たの？
貴子　はい。また来ました。
里穂　あんたも暇だね。
貴子　そんなに暇じゃないけど？
里穂　じゃあ何で？
貴子　まあ良いじゃない、細かいことは抜きにして、ね？
里穂　細かい話じゃないよね？　私の家に、私より先に人がいる。おかしいでしょ？
貴子　おかしくない。よくあることじゃない。
里穂　……。
貴子　ようやく納得したか。
里穂　納得してない。諦めたの。
貴子　うん。それ大事だと思うな。
里穂　……鍵。

里穂は貴子に手を差し出す。

里穂　どうせ大家さんに借りたんでしょ？返して。

貴子は鍵を取り出して里穂に見せる。

貴子　物騒な世の中だね。こんなに似てなくても姉妹って言えば、オッケーなんだもん。

里穂　おかげで我が家は三姉妹って設定になってますけどね。

貴子　……私が妹？

里穂　あんたが姉。

貴子　それ奇怪しいよ。

里穂　奇怪しくしてるのはあんたでしょ？

貴子　まあまあ、良いじゃないの。

里穂　良くない。返して。

貴子は里穂に鍵を渡す。

里穂　で、今日は何？

貴子　ズバッと来たね。

里穂　早く終わらせたいから。
貴子　そんなに早く本題に入らなくても……。
里穂　早く入って、早く帰って。
貴子　え～何？嬉しくないの？
里穂　今の一連のやりとりから、私が喜んでるように見えたとしたら、あんた眼科行った方が良いんじゃないの？
貴子　……照れ隠し。
里穂　……あんたのそういうポジティブなところは尊敬するわ。
貴子　よく言われる。
里穂　で？
貴子　……。
里穂　あのさ、本題に入らないなら、帰って。
貴子　ビールあったよね？
里穂　お酒はナシ。
貴子　え～。
里穂　え～じゃない。酔って、「まいっか」ってなるのが一番イヤ。
貴子　それが大人のルールじゃない。
里穂　違う。そんなルールはない。
貴子　酔わなきゃ話せないなあ……。

里穂　じゃあ帰って。話せないなら、即、帰る。
貴子　ぶ～。

里穂は貴子を無視してビニール袋に入っている商品を出しはじめる。

貴子　今日、高橋くんを見た。

一瞬動きが止まる里穂。

里穂　……どこで？
貴子　アーケード。ステラの前。
里穂　……見間違いじゃない？
貴子　んなわけないでしょ。私が間違えると思う？
里穂　誰にでも間違いはある。
貴子　絶対、高橋くんだって……見たんだから。
里穂　まあ、いいや……それで？
貴子　紙袋持ってた。ポップコーンかな？　……帰って来たんだよ。きっと。
里穂　……それで？
貴子　だから……会ってみる。

里穂　ステラ前で、ずっと待つの？
貴子　……出来る限り。
里穂　ムダ。
貴子　何で？
里穂　時間のムダ。体力のムダ。人生のムダ。
貴子　……分かんないじゃない、そんなの。
里穂　分かるよ。
貴子　やってみないと分かんない。
里穂　分かるって。
貴子　何で？
里穂　死んだ人間には会えないの。
貴子　……。
里穂　それぐらい分かるでしょ。

里穂は台所へ行き、しばらくして戻ってくるが、まだ貴子は俯いている。
それを見て、里穂は語り出す。

里穂　ステラの前には、いたのかもしれないね。映画観に行く途中で、車に轢かれちゃったんだから、観に来たのかもしれない。

貴子　……うん。
里穂　でも会えないよ。会いたくても、会えないんだよ。
貴子　……。
里穂　気持ちは分かるけどさ……。
貴子　見たんだよ？
里穂　……疲れてるんだよ。
貴子　……。
里穂　高橋くんと、なに話すの？
貴子　……何でも良い。……ただ話がしたい。
里穂　……。
貴子　「今日、なに食べる？」とか……「昨日のアレ見た？」とか……「週末どこ行く？」とか、「何してたの？」とか「もう寝た？」とか「おはよう」とか「おやすみ」とか。……何でも良いから、声が聞きたい。
里穂　……しょうがないね。分かったよ。話、させてあげる。
貴子　……どういうこと？
里穂　だからさ、高橋くんの霊なのか、魂なのか、そういうのが私に乗り移れば、出来るわけでしょ？
貴子　……私も大概バカだけどさ、あんたも相当バカだよね？
里穂　え？　私、結構本気なんだけど？
貴子　いや、出来ないでしょ。

里穂　そうでもないと思うけどな……。
貴子　いやいや無理無理。
里穂　あれ？　バカにしてる？
貴子　するでしょ、そりゃあ。
里穂　私ね、中学の時に、それ系の乗り移り的なヤツ、なったことあるんだけど。
貴子　本当に？
里穂　大丈夫大丈夫。ふ～。

里穂は目を瞑り、集中しはじめる。

貴子　もう良いよ？　無理しなくて。
里穂　静かにしてて、集中出来ないから。
貴子　……。

里穂は、それっぽい動きを繰り返す。

里穂　キエ～！

突然の叫び声に驚く貴子。里穂の様子がどこか変わっている。

目を閉じたまま、ゆっくりと語り始める里穂。

里穂　貴子……俺だぜ。高橋だぜ。

貴子　……バカにしてるなら、やめてもらえるかな？

里穂は慌てて目を開く。

里穂　バカになんかしてない。

貴子　してるでしょ？　高橋くんは「だぜ」とか言わない。

里穂　これからなの。

貴子　これから？

里穂　まだ私の意識と高橋くんの意識が半分ずつだから、こんな中途半端な言葉遣いだけど、変わるから、ね？　しばらく我慢して。

貴子　我慢って……。

里穂　会いたいの？　会いたくないの？

貴子　（不本意そうに頷く）

里穂　よし、待ってなさい。（大きく息を吐いて）ふ～。

里穂は、再び目を瞑り、集中する。

里穂　キエ～。

しばらくして、貴子の方を向く。

里穂　貴子……。

貴子　……高橋くん？

里穂　ああ、俺だ。高橋だ。

貴子　……高橋くん、今日、何してたの？

里穂　……ステラに行った。

貴子　それで？

里穂　……映画を観て来た。

貴子　何を観て来たの？

里穂　……アニメ。

貴子　そっか、高橋くん、アニメ好きだったもんね。

里穂　……そうだ。アニメ、好きだ。

貴子　ジブリ？

里穂　……そうだ。ジブリだ。

貴子　ジブリの、何？

里穂　……ジブリの、何、とは？
貴子　ジブリにも色々あるよね？
里穂　……色々……あるぜ。
貴子　ジブリの、何？
里穂　……ジブリ……2（ツー）。
貴子　やっぱりやめよう。

里穂は目を開ける。

里穂　待って待って、ごめん、今のナシ。
貴子　ふざけてるでしょ？
里穂　真剣だよ。真剣だけど、まだ私の意識が強いから、私が知らないことは言えないの。ね？
貴子　それ、あんたが喋ってるだけじゃない。
里穂　だから、もう少し待てば……。
貴子　もういいって。
里穂　……。
貴子　ありがとう。気持ちだけもらっておくから、もういいよ。
里穂　貴子……。
貴子　私さ、分かってるよ、もう二度と会えないし、話せないって分かってる。でもさ、何にも言わず

にいなくなったから、急だったから……まだダメなの。

里穂　うん……。

貴子　だからさ、ちゃんと分かってるから、変な話するけど、ただ聞いてくれたら良いから。それだけで良いから……。

里穂　……それで良いの？

貴子　うん……。

里穂　高橋くんと話したいって思うのは、本音じゃないの？

貴子　……。

里穂　あんた適当に話したいなら、本当に帰って。私も暇じゃないから。

貴子　……話したいに決まってるじゃない。

里穂　じゃあもう一回やろう？　確かめるような変な質問しないでさ、話したいことを話そう？　じゃないと進めないよ？

貴子　……迷惑じゃない？

里穂　は？　今さら？　しかもそれ、あんたが言う？

貴子　さんざん迷惑かけてるからね。

里穂　そうでしょ？　今さら大して変わんないよ。

貴子　（頷く）

里穂　やるんだね？

貴子　（頷く）

里穂は目を瞑り、集中する。

里穂　キエ～。

貴子　ごめん、そのかけ声、必要かな？

里穂　集中するために。私には必要なの。

貴子　ああ……じゃあどうぞ。

里穂　ふ～。（息を吐く）

里穂は目を瞑り、集中する。

貴子　このポーズには何か意味が……。

里穂　あ～もう。邪魔したいの？

貴子　気になるじゃない。

里穂　話したいの？　話したくないの？　どっち？

貴子　話したいです。

里穂　じゃあ黙って待ってて。

貴子　はい……。

里穂　ふ～。（息を吐く）

里穂は目を瞑り、集中する。

里穂　キエ～。

里穂は、目を瞑ったまま貴子の方を見る。

里穂　貴子……。

貴子　バカ高橋。

里穂　……酷い言い方だ。

貴子　当たり前でしょ？　急にいなくなったんだから。それとも何？　悪くないとか思ってるわけ？

里穂　……そうだな。貴子の言う通りだぜ。

貴子　その言い方、何とかならないの？

里穂　……なんともならないぜ。

貴子　……私さ、すっごい泣いたんだよ？

里穂　……分かってる。

貴子　初恋は実らないって言うけどさ、これはないんじゃない？

里穂　……初恋？　……だったのか？

貴子　そういうこと言うの？　そうだよね、高橋くんはモテモテだったから？　そんなこと信じられな

いよね？

里穂　……痛いところを突かれたぜ。

貴子　中学の時に初めて会って、高校も一緒で、大学も一緒で、ずっと好きだったの知らなかったでしょ？

里穂　……初耳だぜ。

貴子　そりゃそうよ。初めて言ったから。

里穂　……ストーカーみたいだぜ。

貴子　一途なの。バカにしないで。

里穂　……してないぜ。

貴子　同窓会でさ、久しぶりに会って、全然変わってなくて、ビックリしたんだからね。

里穂　……貴子は、ちょっとだけ綺麗になってたぜ。

貴子　あのさ、ちょっとって、酷くない？

里穂　……だいぶ綺麗になってたぜ。

貴子　見違えるようにでしょ？

里穂　……それはさすがに言い過ぎだぜ。

貴子　言い過ぎじゃない……努力したんだから。

里穂　……それは認めるぜ。

貴子　そうよ。だからオッケーしたんでしょ？

里穂　……そうだぜ。

貴子　嬉しかったんだから……。
里穂　……。
貴子　ぬか喜びさせるな。バカ高橋。
里穂　……。
貴子　なんとか言いなさいよ。
里穂　……ごめん。
貴子　謝るくらいなら、生きててよ。何もしてくれなくて良いからさ、生きててよ。
里穂　……ごめん。
貴子　……もう良いよ。
里穂　……。
貴子　もう良い。やめよう。文句しか言えない。いっぱい感謝したいこともあるのに、こんなことしか言えない……。もう良い。やめよう。
里穂　……貴子。
貴子　お終い……。ビールあるでしょ？　乾杯しよう？　乾杯。
里穂　……。

貴子は台所へ行く。里穂は、その後ろ姿を目で追う。
やがて貴子がビールを持って戻ってきて、立ちつくす。

貴子　私さ……自分の事、もうちょっと強い人間かなって思ってたけど、全然ダメだね。
里穂　そんなことないよ。
貴子　ごめん、まだ進めそうにないわ。
里穂　俺のせいだよね？
貴子　……それ、もう終わりだって。
里穂　俺がいなくなったから、貴子を苦しめてるんだよね？
貴子　もう良いってば。
里穂　シネマサンドを買ったんだ。
貴子　……。
里穂　貴子が好きだから、一緒に食べるって約束したから買ったんだ。
貴子　……高橋くん。
里穂　約束守れなくてごめん。
貴子　良いの……。
里穂　一人にしてごめん。
貴子　良いって。
里穂　旅行、行けなくてごめん。
貴子　お願いだから謝らないで。
里穂　……いっぱい出来なかったから。
貴子　そんなことないよ。全然そんなことない。私、幸せだったよ？　顔見る度に文句ばっかり言って

たけどさ、すごく幸せだったよ？
里穂　……もっと一緒にいたかった。
貴子　何が食べたかった？
里穂　貴子のオムライス。
貴子　どこに行きたかった？
里穂　真夏の沖縄。
貴子　……行こうよ。
里穂　……一緒には行けない。
貴子　行きたいよ。
里穂　うん……でも行けないよ？
貴子　高橋くん……私、忘れるのかな？
里穂　幸せになるんでしょ？　じゃあ、忘れなきゃ。
貴子　また会える？
里穂　もう会えない。お別れだから。
貴子　……おやすみ。
里穂　おやすみ……。

里穂は、ゆっくりと目を閉じ、ゆっくりと目を開く。

里穂　お酒飲むなら帰ってって言ったよね？
貴子　……言ったよ？
里穂　じゃあ、それは何？
貴子　知らない？　これ、大人用の薬なんだけど。
里穂　へ～、こんな炭酸とアルコールが入ってる飲み薬があったんだ。
貴子　意外と有名だよ？　どんなに辛いことも忘れられるって。
里穂　それは便利な薬だね。でもダメ。
貴子　何で？
里穂　おつまみぐらい要るでしょ？
貴子　作ってくれるの？
里穂　甘えるな。
貴子　え～。
里穂　他人の家のビール飲むんだから、つまむものぐらい手伝いなさいよ。
貴子　ケチ。
里穂　文句言うだけなら帰って。
貴子　はーい。

里穂は台所へ行く。
貴子はテーブルにビールを置いて、台所へ行こうとする。

が、振り返り、一つだけビールを手に持ち、テーブルの上のビールと乾杯する。

里穂　（声のみ）帰るの？

貴子　帰らな～い。

貴子は台所へ去っていく。

（おわり）

シュークリーム事件

福田 修志

◆登場人物

理恵

誠司

誠司が部屋で横になっている。
そこへ理恵が帰ってくる。

理恵　ただいま。

誠司はスマホをいじっている。
理恵は誠司が居る部屋を素通りして出て行き、すぐに戻ってくる。

理恵　お母さんは？
誠司　知らんよ。
理恵　何時に帰ってくるか聞いとらん？
誠司　知らん。
理恵　会（お）うとらんと？
誠司　そう。

理恵は台所へ向かい、部屋から居なくなる。

理恵　（声のみ）あああああ！

誠司は理恵の声に反応し、台所へ向かおうとする。

誠司　何？ゴキブリ？

誠司が居る部屋に駆け込んでくる理恵。
驚き、立ち止まる誠司。

理恵　……正直に言え。
誠司　は？
理恵　今なら許す。言え。
誠司　何の話？
理恵　……あくまでも、惚けるつもりやね？
誠司　意味分からんとけど。
理恵　食ったろ？
誠司　は？
理恵　冷蔵庫にあったはずの、私のシュークリームさんがいません。不思議ですね？　羽でも生えてるんですかね？
誠司　……。
理恵　おい。……食ったろ？

誠司　……。

理恵　誠司くん。正直に言おうね。お姉ちゃん怒らないから。ね？　食べたでしょ？

誠司　……食っとらんよ？

理恵　食ったろうが！

誠司　食っとらんって。

理恵は誠司に近づき、臭いを嗅ぐ。

理恵　クンクンクンクン。

誠司　何しよっとや？

理恵は誠司の臭いを嗅ぎ続ける。

理恵　クンクンクンクン。

誠司　やめろって。

誠司は理恵から距離を取り、離れる。

理恵　（再現して）「クンクンクンクン。」「やめろって」……怪しか。

誠司　怪しくなか。
理恵　甘か匂いのした……。
誠司　せん。
理恵　絶対した。
誠司　……言いがかりやろ？　それ。
理恵　じゃあ食っとらんっていう証拠は？
誠司　は？
理恵　食っとらん証拠ば見せろって。
誠司　食っとらんとば、どがんして証明すればよかとや？
理恵　どがんかしてさ。
誠司　無茶苦茶やな……。
理恵　証拠。ほら、早うして。
誠司　やけんが……じゃあ俺が食ったっていう証拠ば見してよ。
理恵　甘か匂い。
誠司　そいだけ？
理恵　日頃の行い。
誠司　何やそい。
理恵　は？　忘れたとは言わせんぞ？　前、私のじゃがりこ食ったろ？
誠司　……いつの話？

理恵　最悪、こいつ忘れとる……。
誠司　覚えとらん。
理恵　ほら嘘ついた。
誠司　覚えとらんとって。
理恵　そがんして簡単に嘘つくやろ？　そいが証拠さ。
誠司　……アホくさ。
理恵　（時間を見て）もう……早う認めんね、私こがんことしとる場合じゃなかとって。すぐ出かけんばとやけん。
誠司　そい、自分の都合やっか。
理恵　あんた、私にこれ以上行き遅れろって言うと？
誠司　彼氏おらんやろ？
理恵　今から、合コンじゃ！
誠司　知るか、そんなもん。
理恵　分かったけん、早うして。
誠司　俺は本当に知らん。お母さんに聞けばよかやっか。

理恵は電話を掛けに台所へ向かう。

誠司　お母さんは？

理恵　出らん。
誠司　……お母さんが食ったっじゃ？
理恵　何で？
誠司　何で？
理恵　お母さんが食う、動機のなかやろ？
誠司　……そいやったら俺にもなかよね？
理恵　あんたは信じられん。
誠司　……。

誠司は呆れ果てて、理恵を無視する。

理恵　誰が食ったとや……見つけたら、ぶっ殺す。
誠司　物騒かなあ……。
理恵　誰や誰や……。

理恵は窓を開ける。

理恵　お前か！
誠司　やめろって、近所迷惑やけん。……たかがシュークリームごときで何でそがんなると？

理恵　『たかが』？　シュークリーム『ごとき』？
誠司　ただのシュークリームやろ？
理恵　そいば決めるとは、あんたじゃなかやろが！
誠司　……はい。
理恵　あんたにとってはただの甘いお菓子かもしれんけどね、私にとっては、あのシュークリームはね、合コン前の『勝負シュークリーム』なんです。
誠司　何じゃそりゃ……。
理恵　ある日、私はシュークリームを食べました。すると、彼氏が出来ました。もう何年も前のことです。それ以来、私は戦（いくさ）の前にシュークリームを食べることにしました。
誠司　……あ、そう。
理恵　だとすれば、これは私に対するテロ行為に等しい。いや、宣戦布告である。
誠司　宣戦布告って……。
理恵　何ね？
誠司　大げさかやろ。
理恵　は？　私がどがん思いで合コンに臨んどると思うとね？
誠司　……分からん。
理恵　狩りだよ。誠司くん。合コンはね？　生き物がＤＮＡを残すために繰り返す戦いなのだよ。
誠司　……そうですか。
理恵　ん？

ふと、理恵は誠司の後ろにあるゴミ箱に気がつく。

理恵　ちょっと、どいて？
誠司　は？
理恵　三歩、右！

誠司は三歩右へ移動し、理恵はゴミ箱の中から袋を取り出す。

理恵　これ、な～んだ？
誠司　……袋。
理恵　うん。何の？　ねえ、何の袋？
誠司　……シュークリーム。
理恵　え～、何で分かるの？　不思議だね？
誠司　書いとるやろ。

理恵は誠司の目をマジマジと見て、袋を見る。

理恵　食ったろうが！

誠司　食っとらん！
理恵　じゃあなんでココのゴミ箱にあるのかなあ？
誠司　知らんって。
理恵　あ、そっか、そういうことか……食ったね？
誠司　食っとらん。
理恵　お前やろ。
誠司　俺じゃなか。
理恵　いや、お前だ。
誠司　もう……早う行けよ合コンに。
理恵　（時計を見て）あ！　くっそ……タクシーで行かんば間に合わんやかね。
誠司　知るかよ、そんなの。
理恵　誠司……あんたさ、変わったよね？
誠司　……は？
理恵　昔は「姉ちゃん、姉ちゃん」って私の後ばついてきよったとに、いつからそがん風になったと？
誠司　……。
理恵　あの頃はさ、ケンカもしたけど、あんた素直かったよ。なんだかんだ言うても、姉弟やけんね……私もあんたが一番かわいかった。あんたが運動会で一番になれば、自分のことのように喜んで、あんたがお母さんに怒られて泣いた時は、一緒に泣きたくなった。
誠司　……そう。

理恵　やけんさ……食ったろ？
誠司　食っとらん。
理恵　（諭すように）誠司……食ったろ？
誠司　食っとらん。
理恵　（少し考えて）……分かった。もうお終い。疑ってゴメンね。
誠司　……。
理恵　そうよね、誠司がそがんことするはずなかよね？　私、バカだなあ……何で誠司が食べたって思うたとやろ……。本当にゴメン。
誠司　……もう、よかよ。
理恵　いや、良うなか。そいじゃ私の気が済まんけん、やけん……殴って？
誠司　は？
理恵　気が済むまで、私を殴って。
誠司　いや、良かって。
理恵　殴りなさい！
誠司　良かって言いよるやろ？
理恵　……良かと？
誠司　姉ちゃんば、殴りとうなかよ。
理恵　こがんバカな姉ば許してくれると？
誠司　……誰にでも、間違いはあるやろ。

理恵　あんた本当に良かヤツね。……ありがと、誠司。
誠司　……うん。
理恵　（笑顔で）食ったろ？
誠司　（笑顔で）食っとらん。

理恵は誠司に殴りかかるが、誠司はそれをかわす。

理恵　ゴルァァァァ！
誠司　何や、もう……。
理恵　殴れ、ゴルァ！　殴って、食ったって認めんかい！
誠司　……自分が言いよること、分かっとる？
理恵　いいから、殴らんかい！
誠司　おかしかって。
理恵　おかしかって？　……お菓子買って……シュークリーム買って……もう一個買えばよかやっか……なんだと！
誠司　言うとらん！
理恵　他人のシュークリーム食っといて、買えとは何事か！
誠司　言うとらんって。

誠司のスマホが鳴る。誠司はスマホをポケットから取り出そうとする。

理恵　動くな！
誠司　は？
理恵　何ばするつもり？
誠司　電話やろ？
理恵　……外部と連絡とるつもりね？
誠司　向こうからかかってきたとやっか。
理恵　っていう仕込みやろ？
誠司　どがんやって仕込むとや？
理恵　……よかよ。出らんね。

誠司はポケットからスマホを取り出そうとする。

理恵　ただし、目の前で話すこと。少しでも不審な動きしたら、ただじゃおかんけんね？
誠司　……面倒くさ。

誠司はスマホを取り出すと、その画面を見て、電話に出るのをやめる。

理恵　早う出らんね。
誠司　彼女やけん。
理恵　やけん、何や？　出ろ。
誠司　イヤ。
理恵　何でや？　聞かれたら困る話のあるとや？
誠司　あるやろ、そりゃ。
理恵　うるさい。出ろ。

誠司は渋々電話に出る。

誠司　もしもし？　……ごめんね、遅くなって。……うん、まあ取り込み中。……いや、そういうわけじゃなかよ？

理恵はスマホに耳を押しつけようとするが、誠司にはねのけられる。

誠司　……そがんことなかさ。……うん。……今？　……いや、言えるよ。……好きだよ。……うん。
理恵　殴って～。お願い、殴って～。
誠司　うるさか！　（スマホに）……いや、違う。違うって。
理恵　お願い、誠司。ボコボコにして～。

誠司　やけん違うって、姉ちゃんって。姉ちゃんがトチ狂ってワケ分からんこと言いよるとって……本当って信じてよ？　……もしもし？　……もしもし？

誠司は呆然とスマホを見る。

理恵　ケッ、リア充が……。

誠司　何言いよるとや？

誠司は慌てて電話をかけ直すが、繋がらない。

誠司　着拒されたやっか。

理恵　ざまあ見ろ。

誠司　ふざくんなよ？

理恵　一人だけ幸せ噛みしめてんじゃねえっつーの。

誠司　八つ当たりすんなよ。

理恵　あんただけ幸せになるなんて、させんけんね。

誠司　そがんことするけん、結婚出来んとさ。

理恵の顔が豹変する。

理恵　ああ……言っちゃったね。
誠司　……いや。
理恵　あんた今、越えちゃいけない線を越えたね。……車の鍵、返して？
誠司　は？
理恵　あれ私の車よね？　……ほれ、返して。
誠司　それは……ちょっと違うとじゃなかかな？
理恵　そりゃ私もね、違うとは思うよ？　でもさ、いくらケンカでも、ルールってもんがあるよね？
誠司くん、言っちゃうんだもんなあ……。
誠司　……。
理恵　……どうすんの？　ほれ。
誠司　……すみませんでした。
理恵　は？　聞こえない。
誠司　……すみませんでした。
理恵　私が悪かったです。
誠司　……私が悪かったです。
理恵　もう二度と言いません。
誠司　……もう二度と言いません。
理恵　私がシュークリームを食べました。

誠司　食べてません。
理恵　……分かった。もういいや。タクシー呼んだら時間かかるけん、送って？　そいでよかよ。
誠司　……うん。

理恵と誠司は車に乗り込む。誠司が運転して、理恵は化粧をする。

理恵　あんたさ、私がなんの根拠もなくあんたば疑っとるって思っとるやろ？
誠司　そうやろ？　お母さんかもしれんし、お父さんかもしれんやっか。
理恵　……お父さんがさ、糖尿病になっとると知っとる？
誠司　……適当言うなさ。
理恵　あんたに心配かけるけん、言うなって言われとったとけど、本当の話よ？
誠司　……ウソやろ？
理恵　あんた最近、お父さんが甘かもん食べよるとこ見たことある？
誠司　……。
理恵　言うなって言われとるとやけん、言わんでね。
誠司　……お母さん知っとると？
理恵　知っとるさ。知らんとは、あんただけ。
誠司　……。
理恵　みんなさ、あんたの将来ば心配しとるとよ。まあ、私の結婚もやけど……。

誠司　……分かっとるよ。

理恵　あのシュークリームね、お母さんが買ってきてくれたと。「勝負シュークリーム」の話ばしたらさ、合コンの前の日に、毎回勝ってきてくれるとさ。

誠司　……。

理恵　そいばわざわざ食べんやろ？

誠司　……。

理恵　……よかよ、ココで。

理恵は車から降りる。

理恵　送ってくれてありがと。気をつけて帰って。そいじゃ。

車から離れていく理恵を慌てて呼び止める誠司。

誠司　姉ちゃん。

理恵　何？

誠司　あの……俺が食った。

理恵　うん……。

誠司　ごめん……。

理恵　うん……。
誠司　ごめんね……。
理恵　うん……。
誠司　……。
理恵　……そっか。あんたが食ったとか。……あんたが食ったとね。あんたが……あんたが……お前が食ったんかい！

再び車に乗り込む理恵。

理恵　何で食ったんじゃい！
誠司　いや……ハラ減ってたから。
理恵　他にも食うもんあったろうが？　何でよりにもよって私のシュークリームに手を出したんかい。
誠司　……美味そうだったから。
理恵　美味かったか？　ん？　美味かったか？
誠司　美味かったです。
理恵　当たり前じゃ！
誠司　……ごめんなさい。ごめんなさい。
理恵　……帰るぞ。
誠司　は？

理恵　家帰って説教じゃ。
誠司　いや、合コンは？
理恵　そがんとどうでもよか。他人の人生、無茶苦茶にしてくれたとやから、キッチリ落とし前付けてもらうけんな？
誠司　……まだ間に合うとやろ？
理恵　あ？　シュークリーム食べて、風呂入って、赤い洋服を着ていく。それが勝利の方程式じゃ！見て見ろ、何か一つでも出来とるか？　ん？
誠司　……出来てません。
理恵　そうよな？　誰が悪かとかな？　ん？
誠司　……私です。
理恵　そうよな？　じゃあ帰るぞ？
誠司　……はい。

理恵と誠司は車に乗って去っていく。

（おわり）